

# 簡易懸濁法の手順（退院用）

当院ではチューブからお薬を投与する患者様に対して「簡易懸濁法」という方法を推奨しています。

## 簡易懸濁法とは

錠剤、カプセル剤を粉末状にせず、そのまま温湯（約55℃）に入れ、崩壊・懸濁させて投与する方法です。

## なぜ、55℃の湯を使うの？

日本薬局方では、カプセルは「水 50mL を加え 37℃±2℃に保ちながらしばしば振り動かすとき、10 分以内に溶ける」との規定があります。37℃以上の温度に10分間保つための最初の温度が55℃なのです。温度が低すぎると溶けにくく、温度が高すぎると固まってしまったり、成分が分解してしまいます。

## 55℃の湯の作り方

- ポットの湯と水を2：1の割合で混ぜる
- ポットを60℃設定にし、少し冷まして使う

## 錠剤やカプセル剤を粉末状にしないことのメリット

- お薬の効果、安定性が保たれます

粉末状にするより、光、温度、湿度などの影響が少なくてすみます。

- チューブが詰まりにくくなります

懸濁してチューブを通過するお薬を選んでいきます。

- 投与可能なお薬が増えます

粉砕してはいけないお薬でも投与できることがあります。

- 投与時に確認ができます

錠剤のままなのでお薬の確認が可能です。

- 中止、変更に対応しやすくなります

- お薬代が安く済むことがあります

散剤（粉薬）より、錠剤のほうが値段が安い場合がほとんどです。

- 待ち時間が短縮されます

錠剤、カプセルを粉状にする作業には時間がかかります。

- 処方量をきちんと投与できます

粉末状にする過程で、器具への付着、飛散などにより、お薬が減ってしまうのを防止できます。

## ※注意

すべての錠剤がこの方法で投与可能なわけではありません

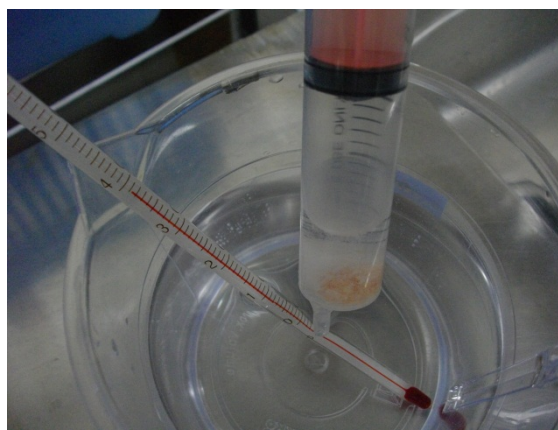
# 手順



- ① 一回分のお薬と使用しているシリンジを用意します。患者様のお名前と、お薬が正しいか、使用するシリンジが汚れていないかチェックしてください。



- ② 一回分のお薬をシリンジにすべてそのまま入れます。  
ほかのお薬と混ぜないように指示のあるものは、別に準備します。(例：塩化ナトリウムなど)。
- ③ 次にお湯を用意します。温度を確認すると、安心です。



④ お湯を吸い取ります。



⑤ こぼれないようシリンジの先をふさぎ、10回程度振り混ぜます。



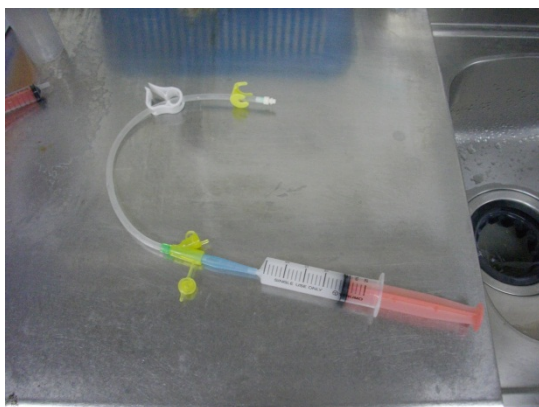
⑥ 10 分程度放置します。



⑦ お薬がきちんと崩壊しているか確認してください。

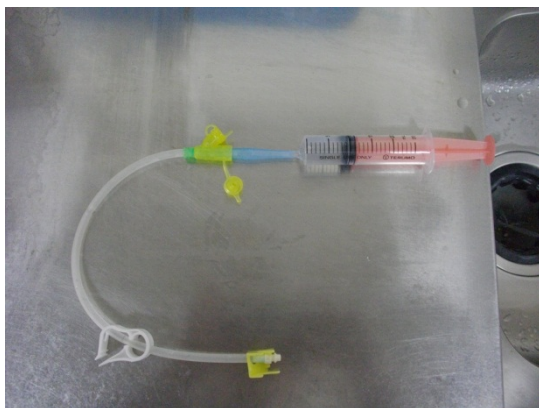


⑧ 経管栄養のセットを用意します。





- ⑨ 再度振り混ぜてから、シリンジを接続し、お薬を投与します。  
(お薬投与前に、チューブがつまらないように、少量の水を流す場合もあります。)



- ⑩ お薬を投与した後、少量の水をチューブに流し、つまりを予防します。  
その後は指示に従って、経管栄養剤などを投与してください。



- ⑪ 器具は指示された方法で洗い、よく乾燥させてください。  
器具が汚れたり傷んできたら、定期的に交換してください。

## 参考)

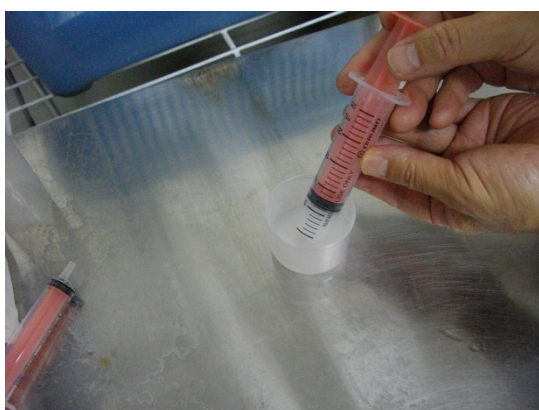
コップなどを使用する方法もあります



コップ、水剤ビンなどに、一回分の薬剤を入れます。



お湯を入れます。そのまま約 10 分間ほどお薬が崩壊するまで放置します。



シリンジに吸い取ります。  
その後は前ページの⑤以降の手順と同じです。



何かお困りのことがございましたら当院薬剤部までご連絡ください。

川口工業総合病院

電話番号 048-252-4873 薬剤部まで。